3　総合的な学習の時間

総合的な学習の時間は、児童生徒を取り巻く社会環境に対して、探究的な見方・考え方を働かせながら、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育てることをねらいとしている。また、その資質・能力を身に付けるために、地域や学校の特色に応じた様々な体験活動や多くの人との関わり等、教科等の枠を越えた探究的な学習を行う重要な役割を果たす学びである。

1　総合的な学習の時間の特質と目標、内容

(1)　特質に応じた学習の在り方を確認しよう

第１　目　標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。

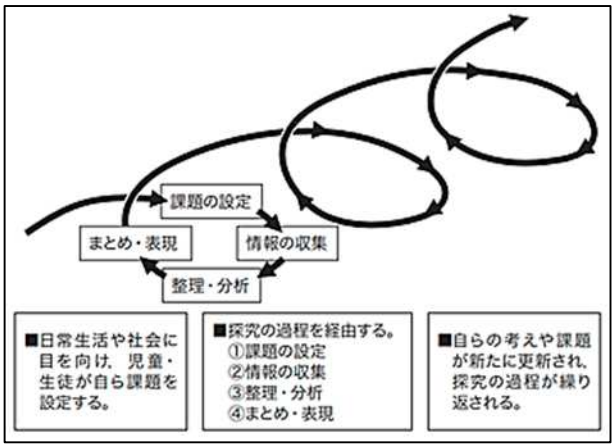
（「小・中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」　平成29年７月　文部科学省）

ア　探究的な見方・考え方を働かせる

総合的な学習の時間では、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習過程を、探究的な学習と呼ぶ。（右図参照）

探究的な学習は、児童生徒の事象を捉える感性や問題意識を揺さぶり、学習活動への取組を真剣なものにする。そして、身に付けた知識及び技能を活用し、その有用性を実感することで学習への意欲はより一層高まる。さらに、概念に対する理解が具体性を増して深まり、学んだことと自己とを結び付けて、自分の成長を自覚したり、自己の生き方を考えたりすることにつながる。このような児童生徒の豊かな学習の姿のプロセスを支えるのが探究的な見方・考え方である。そして、各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰（ふかん）して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続ける総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方を働かせることが、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成につながる。

【探究的な学習における児童生徒の学習の姿】



イ　横断的・総合的な学習を行う

総合的な学習の時間では、国際理解、情報、環境、福祉・健康等、現代的な諸課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童生徒の興味・関心に基づく課題等の中から、各校が「第１　目標」を実現するにふさわしい探究課題を設定する。こうした探究課題は、特定の教科等の枠組みの中だけで完結するものではない。教科等の枠を越えて、各教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら課題の解決に向けて取り組んでいくことが大切である。

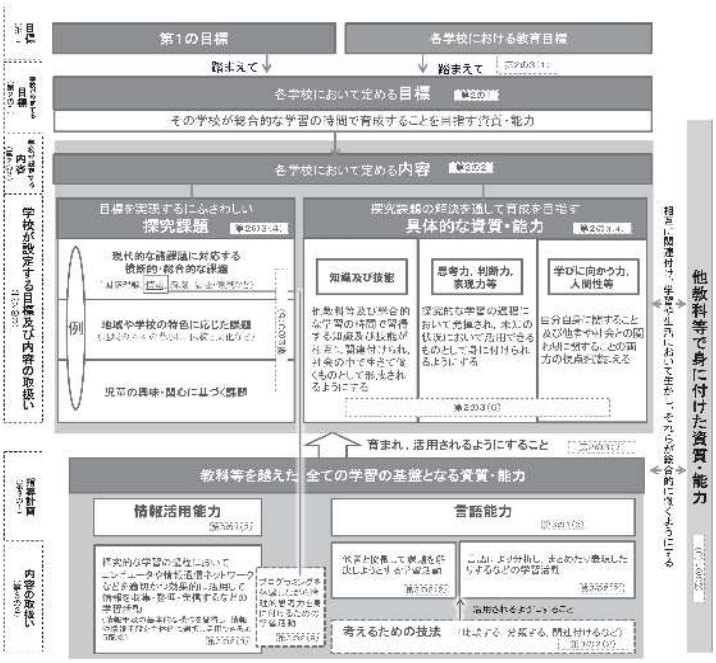
ウ　よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく

「よりよく課題を解決する」とは、解決の道筋がすぐに明らかにならない課題や、複数の正解が想定される課題等について、身に付けた資質・能力を働かせて、粘り強く対処し解決しようとすることである。また、「自己の生き方を考えていく」とは、人や社会、自然との関わりにおいて、自らの生活や行動について考えること、自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくこと、そして、これら二つを生かしながら、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えることである。

(2) 各学校の目標と内容を定めよう

右図のように、各学校は、学習指導要領における「第１の目標」と「各学校の学校教育目標」を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標を定める。そして、各学校において設定する内容に、「目標を実現するにふさわしい探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を設定する。その際には、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つを柱とする。さらに、教科等の枠を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力が育まれ、活用されるものとなるよう配慮する。

【総合的な学習の時間の構造イメージ（小学校）】



（「小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」平成29年7月　文部科学省）

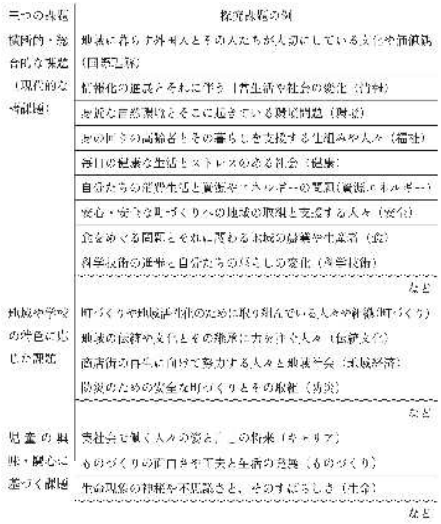
(3) 目標を実現するにふさわしい探究課題と、その解決を通して育成する資質・能力を定めよう

目標を実現するにふさわしい探究課題とは、目標の実現に向けて児童生徒が「何について学ぶか」を表したものであり、学校として設定した課題である。

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力とは、教員の適切な指導のもと、児童生徒が各探究課題の解決に取り組む中で、各探究課題との関わりを通して、具体的に「どのようなことができるようになるか」を明らかにした資質・能力のことである。

具体的な資質・能力については、他教科と同様に「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って設定していく。以下の表は、具体的に「どのようなことができるようになるか」を三つの柱に沿って明らかにした例である。

【探究課題の例】



（「小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」平成29年7月　文部科学省）

知識及び技能（例）		
多様性	相互性	有限性
それぞれには特徴があり、多種多様に存在している。	互いに関わりながらよさを生かしている。	物事には終わりがあり、限りがある。

思考力、判断力、表現力等（例）			
①　課題の設定	②　情報の収集	③　整理・分析	④　まとめ・表現
・　より複雑な問題状況 ・　確かな見通し、仮説	・　より効率的・効果的手段 ・　多様な方法からの選択	・　より深い分析 ・　確かな根拠付け	・　より論理的で効果的な表現 ・　内省の深まり

学びに向かう力、人間性等（例）			
	自己理解・他者理解	主体性・協働性	将来展望・社会参画
自分自身に関すること	自分の特徴やよさを理解しようとする。	自分の意思で課題の解決に取り組もうとする。	自己の生き方を考え、夢や希望等をもとうとする。
他者や社会との関わりに関すること	異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする。	自他のよさを生かしながら問題の解決に取り組もうとする。	進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとする。

２　指導計画の作成と内容の取扱い

（1）　全体計画、年間計画、単元指導計画を作成しよう

総合的な学習の時間では、年間や単元等、内容や時間のまとまりを見通し、教科等の枠を越えた横断的・総合的な学習や興味・関心に基づく学習を必要とする。その際、「主体的・対話的で深い学び」を具現化し、ねらいとする資質・能力を育成するために、創意工夫を生かした教育活動を意図的に計画し、探究的な学習の過程を充実させることが大切である。

（2）　内容の取扱いについての配慮事項を確認しよう

○　各学校において定める目標及び内容に基づき、児童生徒の学習状況に応じて教員が適切な指導を行うこと。
○　探究的な学習の過程においては、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。
○　探究的な学習の過程においては、コンピュータや情報通信ネットワーク等を適切かつ効果的に活用して、情報を収集・整理・発信するなどの学習活動が行われるよう工夫すること。
○　体験活動については、目標を踏まえ、探究的な学習の過程に適切に位置付けること。
○　学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用等の工夫を行うこと。
（「小・中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　第２節」　平成29年７月　文部科学省）

３　総合的な学習の時間の学習指導

（1）　探究的な学習の過程において「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指そう

主体的な学び	学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、主体的に課題解決等に取り組む態度を育む学び
対話的な学び	他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学び
深い学び	探究的な学習の過程を一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指す学び

（2）　探究的な学習の指導をしよう

ア　課題の設定
（ｱ）　実社会や実生活の中から問いをもたせる。
（ｲ）　事前に児童生徒の発達や興味・関心を適切に把握し、児童生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせたり、対象への「憧れ」や「可能性」を感じさせたりする。
（ｳ）　対象に直接触れる体験活動を取り入れる。

イ　情報の収集
（ｱ）　体験を通した感覚的な情報の収集をさせる。
（ｲ）　目的を明確にし、体験活動や情報機器、ＩＣＴの活用で獲得される情報を意識的に収集し、集積させる。
（ｳ）　収集した情報を適切な方法で蓄積させる。

ウ　整理・分析
（ｱ）　収集した情報を整理する段階で吟味することの必要性を考えさせる。
（ｲ）　どのような方法で情報の整理や分析を行うかを決定させる。（思考ツールの活用）

エ　まとめ・表現
（ｱ）　相手意識や目的意識を明確にし、「考えるための技法」を活用してまとめさせたり、表現させたりする。
（ｲ）　まとめたり表現したりすることが、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題の自覚につながることに気付かせる。
（ｳ）　伝えるための具体的な方法を身に付けさせるとともに、それを目的に応じて選択して使えるようにさせる。

4　総合的な学習の時間の評価

総合的な学習の時間における児童生徒の具体的な学習状況の評価については、他の教科等と同じく「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」により行う。

＜ 小学校・中学校　総合的な学習の時間の評価＞

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとしている。

（「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」平成31年３月文部科学省）

5　総合的な学習の時間を充実させるための体制づくり

(1)　目標が達成できるよう４つの視点を考慮しよう

総合的な学習の時間は、学校教育目標の実現に向けて、教育的意義や教育課程における位置付けなどを踏まえ、目標及び内容、学習活動等について決定することが肝要である。自校のビジョンに基づき総合的な学習の時間の目標が達成できるよう、全体計画及び各学年の年間計画、単元計画などを作成し、教職員が互いの特性や専門性を発揮し合い、生徒が質の高い豊かな学習活動に取り組めるようにすることが求められる。体制整備のため、「校内組織の整備」「授業時数の確保と弾力的な運用」「学習環境の整備」「外部との連携の構築」の４つの視点を考慮して取り組んでいく必要がある。

(2)　高等学校「総合的な探究の時間」につなげていこう

2022年度から高等学校で「総合的な探究の時間」が実施されている。総合的な学習の時間は、課題を解決することで自己の生き方を考えていく学びであるのに対して、総合的な探究の時間は、自己の在り方、生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学びを展開していく。小・中学校ではこのことを踏まえて、高等学校で課題を自ら発見し解決していく「高度化した自律的な探究」への接続を考えて取り組んでいく必要がある。

個別最適な学びを実現するための授業例（中２　人はなぜ働くのだろう？）

本単元は、学校の全体計画に定めた探究活動「働くことの意味や働く人の思いや願い」を踏まえて構想し、実践しました。

導入では、子供たちに①自分で考えた働くことの意味と、実際に働いている人が考える働くことの意味の違いに気付かせ、課題を設定しました。次に、保護者に働くことの意味についてのアンケートを実施したり、職場体験活動で訪問する事業所にも出向いて同様のインタビューをしたりして情報収集を行いました。さらに、得た情報をもとに、ウェビングマップとワークシートに記述し、整理・分析することで、働くことの意味について考えました。働くことの意味について自分なりに理解を得た子供は、収集した情報を②目的に合わせて分類したり、分かりやすく効果的に表現したりして、情報をまとめ、調査内容を学級内で発表し、全体で共有しました。

ここがポイント！

①自分の考えを基点に課題を設定し、他者との違いに気づいて比較・分析することで、個々の興味や疑問に応じた探究が可能となります。

②目的意識をもって読み手を意識したまとめ方をすることで、自分自身の考えや新たな課題が明らかとなり、このことが学習の質を高め、深めることにつながります。